


## CEGLOCにおける外国語教育の統合

CEGLOC 外国語部門長 磐崎 弘 貞

### CEGLOC における語学教育

本グローバルコミュニケーション教育センターの外国語教育部門においては、英語と初修外国語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語）を提供している。また、本センターにおいては国語部門、日本語教育部門も設置されており、それぞれ日本人に対する国語教育、留学生に対する日本語教育を実施している。外国語部門は、独自の役割を持つと同時に、こうした各部門とも密接に連携しており、CEGLOC 全体として統合した言語教育を実施する体制となっている。こうした体制を、「筑波式統合言語学習」(Tsukuba Integrated Language Learning, TILL) と呼んでおり、その主たる役割は以下の通りである。

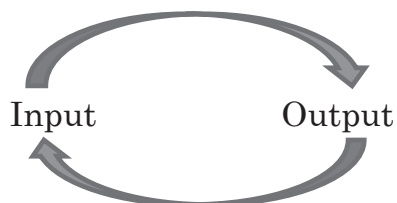
#### 筑波式統合言語学習 (TILL)

各部門の役割	共通課題	内容
英語：一般学術 英語 (EGAP) 教育		学術スキル（リーディング、プレゼンテーション、ライティング）強化；専門教育での英語による CLIL（内容言語統合学習）推進のためのサポート
初修外国語：トライリンガル教育		日本語・英語に加えての初修外国語学習による多様な言語・異文化のより深い理解
国語：母語教育		多様な情報の咀嚼と活用、外国語スキル修得へ応用できる知識提供
日本語：日本語・日本語理解教育		日本語と日本語事情理解、留学生と日本人との交流推進
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的言語教育の推進</li> <li>・言語教授法・教材の開発</li> <li>・発信力（交渉、発表、討論）強化</li> <li>・学術言語技術強化</li> <li>・外部発信の企画設定</li> </ul>	

折しも、2022 年は、2018 年に告示された高校用新学習指導要領の実施年でもある。これが意味するのは、たとえば英語については、そこで強調されている 4 スキル 5 領域（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング [やり取り]、スピーキング [発表]）の統合と発信力強化が本格的にスタートするのが 2022 年である。つまり、情報のインプットに偏るのではなく、常にアウトプットを意識しながらインプットをし、かつそうして行ったアウトプットの結果をもとに、改めてインプットを行う、といったループ思考が、言語学習・言語教育に必要なってくる

わけである。

インプットとアウトプットの  
ループ学習を目指す



よって、大学も、今後そうした高校教育を経て入学する学生の能力を十分に伸ばしていく義務を負うわけである。

こうした状況を踏まえ、CEGLOCでは本センターのミッションを再確認しながら言語の垣根を超えた独自の各種学術活動を行ってきた。たとえば、本センターで企画した「第5回 CEGLOC カンファレンス：語学学習における自律的・双方向的実践」やつくばグローバルサイセンスウィークで実施した「CLIL アプローチが照らす外国語教育の可能性として」などはその実践例である。また、昨年度トライアルとして始まったアカデミックライティングサポートデスクが、本年度、オンライン・対面併用で本格始動したのも喜ばしいニュースである（詳しくは「活動報告」参照のこと）。

こうした活動は、適宜、各種評価を経て、改善すべき点は改善しながら、その活動を活発化していくことになるであろう。その意味で、本ジャーナルもぜひそうした活動への報告、研究成果の発表の場として大いに活用いただきたい。

磐崎弘貞

外国語教育部門長